

「平成22年度地域における国際化推進フォーラム」報告 ～今年度から地域の団体が事務局を務めることに～

特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形 (IVY) 理事 阿部 眞理子

去る12月4日に仙台国際センターにて、「平成22年度地域における国際化推進フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、地方の国際化を推進することを目的に、(財)自治体国際化協会(以下、CLAIR)が主催となり、毎年開催地域を変えて開催されてきましたが、今年度は、地方の実情はそこに住み活動している人たちがより把握しているのではないかとということで、初めての試みとして、CLAIRと、(特活)国際ボランティアセンター山形(以下、IVY)、(財)仙台国際交流協会の3者共催で開催し、昨年度まではCLAIR(市民国際プラザ)が担っていた事務局をIVYが担いました。

IVYは1991年12月設立の団体で、今年で20周年を迎えます。主な事業として、カンボジアの農村支援、外国人生活相談、国際理解教育・環境教育を行っているほか、山形・宮城の学生を中心とするユース組織があります。団体の特徴としては、海外での国際協力活動と日本国内に在住する外国人支援を活動の両輪として設立当初から行ってきたこと、外務省NGO相談員として東北6県を管轄し、ネットワークNGO的な側面も担っていることが挙げられます。

東北の国際関係団体に 求められているものは?

東北は広い地域に活動者、団体が点在しており、同じ活動をしている者同士が普段顔を合わせる機会があまりありません。他団体の情報に接し、自分たちの活動や財政状況を客観的に分析することがなかなか難しいのが現状です。また、実践者の数が少ないことから、第2、第3世代への活動の引き継ぎがなかなか進まないという団体の悩みもあります。

そこで、本フォーラムでは、6県に点在する団体の活動を知ることをひとつの目的として3つの分科会を設け、各団体の活動を紹介し、その情報を自分の団体に持ち帰って役立ててもらうことにしました。

第1分科会では、同じ国際協力活動を行っている実践者のみならず、自治体、協会などが側面から支援することによって、若者の活動が活性化していくことが東北における国際化の推進には欠かせないと考え、「若者と国際協力」というテーマを掲げました。企画から当日の運営もIVYのユースチームの学生が担当し、連日連夜集まっては検討を重ねました。当日は、東北各県の大学生を中心とした海外支援の団体やサークルが集まり、それぞれの活動を振り返り、今後の活動の指針について話し合われました。

もうひとつの切り口は「外国人」です。2010年の9月に同じ仙台国際センターで行われた多文化共生の会合の席上、ある在住外国人の方が、「多文化共生をうたった活動の割には、外国人が活動に参加しているケースが少ない。真の多文化共生社会が実現するには、外国人自身が活動に参加し、日本人と共に実現に向けて努力すべきではないか」という提



基調講演の様子



第3分科会の様子

言をされていました。確かに支援の必要な外国人はまだ多いのが現実ですが、日本の社会を多文化共生社会にしていくには、活動そのものを多文化にしていく必要があると考え、第2分科会は多文化共生をテーマとしました。当日は東北各地で活躍中の外国人の方を迎え、日本で活動を行う上での困難な点、将来へ向けての展望等をお聞きしました。

第3分科会のテーマは「開発教育・国際理解教育」です。小さい頃から海外のことに関心を持つことが国際化には欠かせませんが、開発教育、国際理解教育を学校現場に取り入れることがその原動力になるはず。東北各地でも開発教育・国際理解教育の活動は、実践する教員数の増加、研修会の内容の充実、独自教材の開発により、教育現場への浸透は徐々に進んでいるといえます。教員の方々も各地域でネットワークをつくって情報共有を行っていますが、ネットワークの継続性、事務局機能を誰がどのように担うかが常に課題となっていました。そこで、本分科会では、実行力、継続力、継続性のあるネットワークの在り方について話し合いました。

これらの活動が継続してこそ、地域の国際化は推進していくわけですが、そのためには若者、外国人等の「人材」を発掘し育てていかなければなりません。しかし、人材の確保には「資金」が必要です。そこで、基調講演は、自己資金率が高く、全国にユースの支部がある「ハンガー・フリー・ワールド」事務局長の渡邊清孝さんをお招きし、事務局長としてどのようなことを念頭において活動されているの

か、ファンドレイジングの基本的な考え方などのお話をいただきました。

顔を合わせることが、やはり大事

参加者数は99名、スタッフ18名、総勢117名でフォーラム本番を迎えました。学生の参加者が5割を超え、どの分科会にも学生が参加し、活気が生まれるとともに新しいアイデアも生まれ、これからの東北を担っていく若者に頼もしさを感じました。

参加者からの感想では、「基調講演はとてわかりやすく、企画書作りから報告まで、自分たちの団体でも徹底的にやっていくべきだと思った」「幅広い世代、団体、職業の方が参加していたこともあり、様々な視点からの話を聞くことが出来た」「学・官・NPOの協働が成功の要因だと思います」「東北国際フェスティバルをやりたい!」など、参加して良かったというご意見をたくさん頂戴することが出来ました。

つながりは始まったばかり

今回のフォーラムは、共催団体である仙台国際交流協会（以下、SIRA）が入っている仙台国際センターで行われました。協会の職員の中にはCLAIRに出向していた方もおられ、CLAIR（行政）とIVY（民間団体）の双方の事情を理解して下さっていたので、フォーラム全般にわたり相談に乗っていただきました。

また、第3分科会は、JICA東北支部の担当者の方と相談しながら事例発表者を決定するなど、今回のフォーラムは各方面の関係者のご協力のもとに成し遂げることが出来ました。

SIRAやJICA東北支部とは、常日頃事業上のお付き合いがあり、お互いの団体が得意とするところをわかっていたからこそその連携だったと思います。

今回のフォーラムは、久しぶりに東北全体の国際関係者が集う機会になりました。このような機会を与えていただき、大変感謝しております。

CLAIRの皆様とNGOであるIVYとのお付き合いは、実は始まったばかりです。CLAIR、協会、NGOとの連携が今後何を生み出していくのか、これからの展開が楽しみです。